○やつしろらん＝就テ―濱田稔氏ノ戰地通信　（津山　尙）

支那派遣軍總司令部氣付多摩部隊＝於テ重要任務＝ツカレツツアル濱田稔氏カラ昨年12月中旬＝本田正次博士及ビ小生宛＝葉書ヲ頂イタ。同氏ハ蘭科植物ノ菌根ヲ專門＝研究サレつちあけびノソレ＝關スル論文中デハやつしろらんノ類＝モ論及サレテヰル。偶々本田博士ト共著デ書イタあきざきやつしろらんノ說明文中＝同氏ノ論文ヲ引用シタタメ（中井教授監修東亞植物圖說3卷3輯246頁）、此通信ハ小生達＝書カレタモノト思ハレル。ソレ＝ハ「拜啓此の二月以來氣に掛つて居りました東亞植物圖說第三卷第三輯をやつと近頃見る機會を得まして、どうやら重荷が下りたやうです。春咲並びに秋咲やつしろらんは御說の如く、別種と見るのが至當でありませう。從つて246頁に御引用致されました小生論文の記事は、誠に小生の不注意の至りと存じます。（中略）尙一寸氣づいた事ですが兩種共その記載文中に『花後地下莖頸部より細い繁殖用の地下莖を出す云々』は明かに根と思はれます。この根は春咲種に於て七―八月頃約一米にも達したものがあつたと記憶して居ります。*G. callosa* は兩種の中の何れかに非常に近いやうに思はれますが。」トアル。

東亞圖說＝「繁殖用地下莖」ト書イタモノハ小生モ亦「根」デアルト言フ意見＝達シテ、昨年9月28日ノ日本植物學會例會＝「おにのやがらトやつしろらん＝就テ」ナル講演ヲシタ時＝ハ、ソノ樣＝話シタ。小生ハ BURGEFF ノ「腐生ト共生」ナル書＝ジャバ產ノ近似植物＝就テヤハリ根デアル樣＝書イテアルノヲ讀ンダガ、一點ノ疑ガ有ツタノデ、昨年8月＝京都帝大理學部植物學教室＝同氏ヲ訪ネテ、意見ヲ伺ハウトシタガ，既＝出征サレタ後デ殘念ナガラ引キ返シタノデアル。ココ＝同氏ヨリ偶然＝モ親切ナ葉書＝接シテ感謝スル次第デアル。根ノ伸長スル點＝就テ外國產ノ種デモ色々ト報告サレテヰルガ、日本產ノモノモ 1m ＝達スルトスレバ植物體ノ割合＝ハ實＝長イト言ハネバナラヌ。コノ根ノ處々＝種＝ヨツテ定ツタ或ル種ノ菌ガ寄生（共生？或ハ時＝逆＝寄生サレル）シテミコリザヲ作リ、ソノ刺戟＝ヨツテソコカラ新タ＝不定芽的＝小地下莖ヲ生ジ、後＝一人前ノ植物ヲ生ズルノデアル。京大理學部植物學教室＝所藏サレタ標本ノ中＝ハコノ長ク水平＝伸ビル根ノ上＝既＝相當肥大シタ幾ツカノ地下莖ガ長サ 2cm 位ノ小サイ芋蟲ノ樣＝列ンデ生ジテヰルモノガアツタ。やつしろらんノ樣＝長イ根ヲ伸シテ繁殖シ、且花期ノ後＝果實ノ柄ガ長ク伸ビ上ツテ來ル型ノモノハ、世界中デマレー半島カラニューギニア＝カケテノ8種ト、上記ノ2種ノ他＝、琉球デ最近發見サレタ、小泉源一博士ノふゆざきやつしろらんト小笠原島特產ノむにんやつしろらんヲ加ヘテ全部デ12種アル。此等ハ濱田氏モ指摘セラレル樣＝皆ヨク似タモノデ、熱帶ノ林中ノ陰濕ナ腐葉土ノ中カラ生ジテ、安全＝蒴果ヲ乾燥サセ、種子ヲ樂＝散布スル爲＝果實ノ柄ヲ長ク差シ上ゲ伸バス性質ヲ持ツタ一群デアル。コノ群トハ別＝長イ根ハ出スガ果實ノ柄ガ伸ビナイ性質ノモノガ、印度支那、支那、マレー半島、臺灣＝カケテ約10種アル（但シコレラノ中＝ハ多少未ダ調査ヲ要スルモノモアル）。又根ハ有ルガ長ク伸ビズ＝、所謂珊瑚樹狀根（Kollaloid Wurzel）ヲスルモノガアフリカ、セイロン、ジャバ＝3種アル。又全然根ガナイモノ＝日本產ノおにのやがら、支那ノ *Gastrodia Mairei*, インド、カシミール產ノ *G. orobanchoides* ガアル。以上ノ4群ノ中初メノ2ツハ地下莖＝

單細胞ノ毛ガアルガ、後ノ 2 者ニハ全然毛ガナクテ、自主的ニハ水分ノ攝取サヘモ出來ズニ、ソレモ亦寄主ニ仰イデキル。コノ樣ナ根ノ型ガ大體ニ於テ花部ノ標徵ノ似寄リト平行シテ起ル點ハ大變面白ク、分布モ大體氣候帶ヤ地球現在ノ地理區分ニ對シテ或ル繫ガリヲ持ツテキル樣デアル。何レココニ言及シナカツタ濠洲方面ノ種類ヲ加ヘテ、*Gastrodia*屬全體ノ分類地理ヲ考察シテ見ル機會ガアルト思フ。SCHLECHTER ハ一度コノ屬ノ中ノ區分ヲ試ミテキルガ、ソノ結論ハ小生ニハ不滿デアル。

第 16 卷第 12 號訂正

頁	行	誤	正
710	24	acessorische	accessorische
710	下カラ 5	237, 388,	237, 332, 388
712	下カラ 8	Auslösungswinkel	Auslöschungswinkel
713	11	KC— und	KC— auf und
714	17	742	743